

吉田寮入寮案内

よしだりゅう

私は吉田寮に入ってよかったと思う。京大を目指したのは吉田寮のため。京大に通えたのは吉田寮のおかげ。浪人・留年・休学したのはちょっとだけ吉田寮のせい。大好きな人たちと巡り逢えたのは吉田寮のおかげ。ついでに一部の人に嫌われてしまったのも吉田寮のせい・・・のはず。そして現在私は理学部在学6年目で休学中。2010年4月からは復学予定である。この文章ではそんな私の、吉田寮での思い出を少しだけ語ってみようと思う。

私が初めて吉田寮を訪れたのは2002年の冬。床に転がるゴミと寮生と猫、腐った廊下、割れた窓、山積みの漫画やゲーム、夜を徹して続く楽器の音・・・そしてなによりも濃密な人間関係。当時の私は今よりもさらに未熟で、これら吉田寮の魅力にあっというまに感化されてしまった。それから私は吉田寮を受験の宿として利用し京大を受け続け(吉田寮は一泊200円で外部の人間も大部屋に宿泊できる。)、2004年に合格、入寮を果たした。

一年目。全く勉強せず、単位もろくに取らず、好きなことをして過ごす。試験を受けて白紙で出したら単位が出たりしたため、意外にも0単位ではなかった。

二年目。成績不振のため授業料免除が不許可になり、アルバイトをかなり増やす。奨学金は、きちんと返す自信が無いので借りなかった。幸い手頃なアルバイトに就くことができ、それほど苦勞せずに必要なお金を得ることができた。しかしこの頃から、「成績不振による授業料免除不許可→アルバイトを増やして単位取れず→繰り返す」という悪循環に陥る。

三年目。家庭の事情で経済状態が悪化。毎月約20万円をアルバイトで稼いでいたため、日々の生活がしんどいと思い始める。あいかわらず勉強はしなかった。

四年目。家庭の事情から解放される。卒業の危機を感じ始めたため、比較的単位の取りやすい実験、実習、集中講義で単位をかき集め、残すは卒業研究だけというところまでこぎつける。単位を取ることに集中したため、全くといっていいほど勉強できなかった。

五年目(休学)。将来暖かい地域に住みたいのでちょっと様子を見てみようと思い、東南アジアの国々10ヶ国を放浪する。行く先々で人々にはやさしくしてもらい、食べ物をもらったり家に泊めてもらったりして、孤独を感じる事があまり無かった。腹も全くこわさず、初の海外旅行なのにひどく拍子抜けだった。どこの国も気候は申し分なし。ただ、都市部は排気ガスによる汚染がひどかった。これらの国々は数十年前の日本と同じ道を辿っているのだろうと思った。

六年目(休学)。今度は沖縄に住み込んで、大型トラックの運転手やさとうきびの刈り取りのアルバイトをやった。仕事はきつく賃金は低かったが、ここでも人々と熱い交流ができ、とても面白かった。有人の島としては日本最南端の波照間島というところにいたのだが、意外にも冬は寒かった。京都と比べると確かに暖かいのだが、寒いと感じてしまうものは仕方がない。なお、このとき日本最南端の便所の建設に参加できたことは私の生涯の誇りとなるだろう。

そして現在六年目の終わりが近づき、七年目は復学するつもりでその準備をしている。二年も休学していろいろなところに行ってみたが、どこに住んでもたいした違いは無いと感じ、それならば卒業後は故郷に帰ろうという結論に達した。

吉田寮のパフレットなのに、ついつい自分のことばかり書いてしまったが、私が言いたかったのは「吉田寮に入るといろいろな人に出会えて、自分の価値観に多様性が生まれる機会に恵まれるよ。」ということだ。私は将来どこに向かうのかを決めるのにずいぶんと回り道をした気もするが、決してそれは無駄ではなかったと思っている。もしこの欲張った作業を今のうちにやっておかなかつたら、数年先、数十年先に必ず「もしあのときあの破天荒な道を選んでいたら自分はどうなっていたであろうか？」という考えが私の心を乱すに違いない。どこに住もうが楽しみや苦しみは同じように存在するのであり、結局は周りの環境をどのように受け止めるのかというその人自身の能力が、その人の楽しみ具合、苦しみ具合を決定する一番の要因となることを直接の経験から学んだのは大きな収穫だったと思う。

さて、吉田寮のこれからについて少し述べておこう。吉田寮は築97年目。2010年春の新入寮生が在学4年目の年に100周年を迎える。だが無事に100周年を迎えられるかという点、状況はそれほど甘くはない。確かに建物自体は放っておいても4年やそこらはもつだろうが、現在も進行中の建物の老朽化への対策をどうするかという問題に関連して大学当局から建て替えの提案が出てきている。この提案に乗れば吉田寮という名前の施設は残るだろうが、現在の吉田寮とは全く異なるものが出来上がってしまうことは想像に難くない。吉田寮自治会は、吉田寮を大規模に補修するか、もしくはできるだけ自分たちの望むものに近い形での建て替えかの道を模索している。

次に吉田寮の自治についても少し述べる。現在の吉田寮の雰囲気は自治会が存在することと切っても切り離せない関係だ。自分たちの住む場所を、自分たちで管理運営するという当たり前前のことを実践しているからこそ、吉田寮が自由な空間を確保することができ、さらに福利厚生施設としての質を維持することができているのだ。現在のような吉田寮を残していこうと思うなら、自治会を存続させなければならない。まだ寮生になってもいないうちから自治の話聞いても実感を持ちにくいだろうが、自治をするというのはけっこうな時間と労力がかかる。楽しい吉田寮もただただ楽しいだけなのではなく、しんどい仕事も存在しているのだ。吉田寮を愛する人がたくさん入ってきてくれると、私はうれしい。しかし、吉田寮に寄生するだけの人、他人にケツを拭いてもらうのが当たり前のように振る舞う人には入ってきてほしくない。寮生は吉田寮にとってお客さんではないし、吉田寮は安アパートでもない。常に全力で自治会に尽くせとは決して言わないが、吉田寮に入るからにはほんの少しでいいから仕事をして、なおかつ自分のために他人の仕事を徒に増やすことがないようにしてほしい。

吉田寮に入るかどうか迷ったら、実際に大部屋に泊ってみればいい。寮はやめたほうがいいと言ってくる人がいるかもしれないが、そんな人のうちほとんどは実際に寮に住んだことがない人である場合が多い。寮は危ない？むしろ吉田寮は外より安全だ！寮だと勉強できない？そんなの自分次第だ！入寮案内を読んだ時点で吉田寮に興味を持ったなら、自分で直接確かめてみないと絶対に損だ。読者諸君よ、他人に踊らされることなかれ。自らの意志で踊れ。道徳や文化を克服し、己の価値観を再構築せよ。もしご縁があれば、吉田寮の受付のコタツでお会いしましょう。